

表1 世界のBSE発生頭数及びvCJD症例数 (BSE: 頭、vCJD: 人)

BSE発生順	国名	BSE	vCJD
1	英国	183,880	147
2	アイルランド	1,424	1※2
3	フランス	914	6※1
4	ポルトガル	902	—
5	スイス	454	—
6	スペイン	448	—
7	ドイツ	331	—
8	ベルギー	125	—
9	イタリア	117	1
10	オランダ	76	—
11	デンマーク	14	—
12	スロバキア	15	—
13	ポーランド	16	—
14	日本	11	—
15	チェコ	12	—
16	スロベニア	4	—
17	カナダ	3	1※2
18	ルクセンブルク	2	—
19	リヒテンシュタイン	2	—
20	オーストリア	1	—
21	ギリシャ	1	—
22	フィンランド	1	—
23	イスラエル	1	—
24	アメリカ	(1)※3	1※2

出典) BSE発生数については、OIE(国際獣疫事務局)等(2004年7月9日時点; 英国のデータは2004年1月16日時点)、vCJD症例数については、Department of Health(英国保健省)等(2004年7月5日時点)。なお、表中の"—"は、vCJDの報告がないことを示す。  
 ※1 英国滞在歴のある患者を含む。 ※2 英国滞在歴のある患者。  
 ※3 米国で発見されたBSE感染牛は、カナダで出生した牛であり、カナダに集計されている。

## 牛海綿状脳症(BSE)のスクリーニング検査結果について(週報)

- ◎ 全頭検査開始以降にBSEと診断された牛は9頭(平成13年9月に千葉県で確認された1例目及び死亡牛検査で確認された1例を含め、国内では11頭)。その他のスクリーニング検査の結果は以下の通り。

搬入日	症状を呈する牛 ※1			生後30ヶ月齢以上の牛			その他の牛			計			
	陰性	陽性	検査中	陰性	陽性	検査中	陰性	陽性	検査中	陰性	陽性	検査中	計
平成13年度10月18日～3月31日	1,851	0	0	215,529	19 ※2	0	306,152	40	0	523,532	59	0	523,591
平成14年度 4月1日～3月31日	2,970	3 ※3	0	517,744	23 ※4	0	733,053	18	0	1,253,767	44	0	1,253,811
平成15年度 4月1日～3月31日	6,264	2 ※5	0	494,983	4	0	751,370	7 ※6	0	1,252,617	13	0	1,252,630
平成16年 4月1日～4月30日	569	0	0	44,671	2	0	69,240	0	0	114,480	2	0	114,482
5月1日～5月31日	541	0	0	36,306	0	0	60,132	0	0	96,979	0	0	96,979
6月1日～6月30日	566	0	0	36,234	2	0	61,860	2	0	98,660	4	0	98,664
7月1日～7月3日	57	0	0	3,679	0	0	5,797	0	0	9,533	0	0	9,533
7月4日～7月10日	145	0	0	9,501	1	0	15,851	1	0	25,497	2	0	25,499
7月11日～7月17日	187	0	0	9,634	0	0	16,634	1	0	26,455	1	0	26,456
7月18日～7月24日	138	0	0	8,992	0	0	13,670	1	0	22,800	1	0	22,801
7月25日～7月31日	183	0	0	10,198	0	0	16,324	1	0	26,705	1	0	26,706
計	13,471	5	0	1,387,471	51	0	2,050,083	71	0	3,451,025	127	0	3,451,152

- ※1 生後24ヶ月齢以上の牛のうち、生体検査において運動障害、知覚障害、反射又は意識障害等の神経症状が疑われたもの及び全身症状を呈する牛  
 ※2 BSE陽性牛2頭を含む  
 ※3 BSE陽性牛3頭  
 ※4 BSE陽性牛1頭及びBSE確認検査の結果、陰性と判断するには至らなかった1頭を含む  
 「第12回牛海綿状脳症の検査に係る専門家会議の結果について」  
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/03/h0327-2.html>  
 ※5 BSE陽性牛1頭を含む  
 ※6 BSE確認検査の結果、非定型的なBSEと判断された1頭及びBSE陽性牛1頭を含む  
 「第13回牛海綿状脳症の検査に係る専門家会議の結果について」  
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/10/h1006-2.html>

(注) 平成13年10月18日～平成16年7月31日までにBSEの疑いがあるためとさつ禁止措置を講じた件数 3件

(おしらせ) 平成13年度及び平成14年度については平成15年5月より、平成15年度については平成16年4月20日よりまとめた数値として報告しています。

平成16年5月31日  
農林水産省

牛海綿状脳症(BSE)サーベイランスの結果について  
(平成16年4月末まで)

「牛海綿状脳症特別措置法」(平成14年法律第70号)及び「牛海綿状脳症(BSE)検査対応マニュアル」(平成13年10月18日)に基づき、都道府県において実施した死亡牛等のBSE検査頭数は以下のとおり。

	検査実施頭数	検査結果	
		陽性頭数	陰性頭数
平成13年度 (平成13年10月18日～平成14年3月31日)	1,095	0	1,095
平成14年度 (平成14年4月1日～平成15年3月31日)	4,315	0	4,315
平成15年度 (平成15年4月1日～平成16年3月31日)	48,416	※1	48,416
平成16年度 (平成16年4月1日～平成16年4月30日)	7,393	0	7,393

※ 平成16年3月5日に北海道における死亡牛等のBSE検査でエライザ検査陽性となった乳牛1頭について、3月7日に確定検査を行ったところ陽性となったことから、3月9日に開催された食料・農業・農村政策審議会消費・安全分科会食衛生部会第1回プリオン病小委員会においてBSE患者であることが確認された。死亡牛等のBSE検査によって感染が確認された国内初の事例である。

連絡先  
農林水産省消費・安全局衛生管理課  
担当: 杉崎、山下  
電話: 03-3502-8111  
(内線 3220、3222)  
03-3502-5994(直通)

平成16年6月30日  
農林水産省

牛海綿状脳症(BSE)サーベイランスの結果について  
(平成16年5月末まで)

「牛海綿状脳症対策特別措置法」(平成14年法律第70号)及び「牛海綿状脳症(BSE)検査対応マニュアル」(平成13年10月18日)に基づき、都道府県において実施した死亡牛等のBSE検査頭数は以下のとおり。

	検査実施頭数	検査結果	
		陽性頭数	陰性頭数
平成16年5月 (5月1日～5月31日)	7,999	0	7,999
平成16年度累計 (16年4月1日～16年5月31日)	15,390	0	15,390

連絡先  
農林水産省消費・安全局衛生管理課  
担当: 杉崎、山下  
電話: 03-3502-8111  
(内線 3220、3222)  
03-3502-5994(直通)

表4 我が国で確認されたBSE感染牛の概要

	発生年月日 (BSE陽性確認日)	飼育農場 (生産農場)	生年月日 (月齢)	臨床症状 (BSE症状を疑う症状)	処分場所	確認検査場所	確認検査結果			備考
							HP	IHC	WB	
1	H13.9.10	千葉県白井市 (北海道佐呂間町)	H8.3.26 (65)	起立不能・敗血症 (無し)	と畜場 (病畜と殺)	動衛研	+	+	+	
2	H13.11.21	北海道宗谷郡猿払村	H8.4.4 (67)	無し	と畜場 (健康畜)	帯広畜産大	-	+	+	
3	H13.12.2	群馬県勢多郡宮城村	H8.3.26 (68)	無し	と畜場 (健康畜)	横浜検疫 帯広畜産大	+	+	+	
4	H14.5.13	北海道白糠郡音別町	H8.3.23 (73)	左前肢筋断裂・起立困難 (無し)	と畜場 (病畜と殺)	帯広畜産大	+	+	+	
5	H14.8.23	神奈川県伊勢原市	H7.12.5 (80)	股関節脱臼・起立不能 (無し)	と畜場 (病畜と殺)	国立感染研	-	+	+	
6	H15.1.20	和歌山県那賀郡 (北海道標茶町)	H8.2.10 (83)	起立障害 (無し)	と畜場 (病畜と殺)	国立感染研	+	+	+	
7	H15.1.23	北海道網走市 (北海道湧別町)	H8.3.28 (81)	無し	と畜場 (健康畜)	帯広畜産大	-	+	+	
8	H15.10.7	福島県葛尾村(肥育) 栃木県大田原市(哺育) (栃木県塩谷町)	H13.10.13 (23)	無し	と畜場 (健康畜)	国立感染研	-	-	+	非定型的な BSE
9	H15.11.4	広島県福山市 (兵庫県氷上郡)	H14.1.13 (21)	無し	と畜場 (健康畜)	国立感染研	-	-	+	
10	H16.2.22	神奈川県平塚市 (神奈川県秦野市)	H8.3.17 (95)	股関節脱臼・起立不能 (無し)	と畜場 (病畜と殺)	国立感染研	+	+	+	
11	H16.3.9	北海道標茶町	H8.4.8 (94)	股関節脱臼・起立不能 (無し)	家畜保健衛生所(死 亡牛サーベイ)	動衛研	+	+	+	

HP:病理組織学的検査、IHC:免疫組織化学的検査、WB:ウエスタンブロット法による検査

表5 BSE病原体への実験的経口暴露又は自然暴露後の感染性に基づくウシの組織分類に関する予備推定の暫定的要約

感染性力価 <sup>1)</sup> (およその範囲) <sup>2)</sup>		実験的			自然発生(臨床的症)	
		前臨床的症例(暴露後経過月数)		臨床的症例(暴露後経過月数)		
マウス	ウシ	(6~14月)	(18月)	(32月)	(36~40月)	
高 ( $10^{3.0} \sim 10^{5.0}$ )	高 ( $10^{5.7} \sim 10^{7.7}$ )					脳、せき髄、 ?網膜(データ未発表)
中 ( $10^{1.5} \sim 10^{3.0}$ )	中 ( $10^{3.3} \sim 10^{5.6}$ )	回腸遠位部		脳		
低 ( $\leq 10^{1.5}$ )	低 ( $\leq 10^{3.2}$ )	回腸遠位部	回腸遠位部	脳、せき髄、 背根神経節	脳、せき髄、背根神経節、三叉神 経節、回腸遠位部、骨髄(38月)	

1) ウシBSE症例の感染性範囲は、ヒツジのスクレイピー症例に比べて非対称的であったため、ここで使用した分類は暫定的で任意なものである。この分類は、SSC報告書の表1及び付属文書のグループ又は分類とは一致しない。

2) 太字で示した表の値は、ウシ生物学的検定に基づく。

参考文献) Scientific Steering Committee. Opinion on TSE Infectivity Distribution in ruminant Tissues (State of Knowledge, December 2001), Adopted by the Scientific Steering Committee at its meeting of 10-11 January 2001.

表6 BSE症例1頭の総感染力

組織	感染密度	ウシの体重537kg あたりの重さ (kg)	BSE症例1頭につ いてのID <sub>50</sub>	ウシ1頭についての 総感染負荷の割合	累積負荷
脳	10	0.5	5,000	64.1%	64.10%
せき髄	10	0.2	2,000	25.6%	89.70%
三叉神経節	10	0.02	200	2.6%	92.30%
背根神経節	10	0.03	300	3.8%	96.10%
回腸	0.32	0.8	260	3.3%	99.40%
脾臓*	0.03	0.8	26	0.3%	99.70%
眼	0.03	0.1	3	0.04%	99.74%

\* あるデータによれば、スクレイピーからのBSEの推定は有効でないため、脾臓は感染していない可能性もある。

参考文献) Scientific Steering Committee. Opinion on the Scientific Steering Committee on the human exposure risk (HER) via food with respect to BSE, Adopted on 10 December 1999

表7 (独)家畜改良センターへの報告に基づく年齢別と畜頭数(平成15年度)

年齢	と畜頭数				構成比(%)		
	計	オス	メス	不明	計	オス	メス
0	8,422	7,653	767	2	0.8	1.2	0.2
1	248,718	231,502	17,174	42	22.3	37.6	3.5
2	624,941	369,964	254,874	103	56.1	60.1	51.9
3	31,909	4,762	27,140	7	2.9	0.8	5.5
4	27,041	324	26,712	5	2.4	0.1	5.4
5	30,603	210	30,391	2	2.7	0.0	6.2
6	29,101	106	28,994	1	2.6	0.0	5.9
7	24,288	66	24,219	3	2.2	0.0	4.9
8	19,518	45	19,468	5	1.8	0.0	4.0
9	14,836	36	14,800	0	1.3	0.0	3.0
10	10,703	24	10,678	1	1.0	0.0	2.2
11	8,599	34	8,563	2	0.8	0.0	1.7
12	7,287	34	7,253	0	0.7	0.0	1.5
13	6,272	32	6,237	3	0.6	0.0	1.3
14	5,208	85	5,122	1	0.5	0.0	1.0
15	3,545	6	3,539	0	0.3	0.0	0.7
16	2,256	1	2,253	2	0.2	0.0	0.5
17	1,311	5	1,306	0	0.1	0.0	0.3
18	652	2	650	0	0.1	0.0	0.1
19	275	0	275	0	0.0	0.0	0.1
20以上	121	0	121	0	0.0	0.0	0.0
不明	8,041	330	429	7,282	0.7	0.1	0.1
計	1,113,647	615,221	490,965	7,461	100	100	100

(注)5月24日集計。法施行が平成15年12月1日であるため、11月30日までにと畜された牛の情報はずべて法の対象外の報告、11月30日以前に出生し12月1日以降にと畜された牛は性別のみ法の対象となる届出(ただし、法施行に伴う再届出であり集計時点では確認作業中)、12月1日以降に生まれた牛は性別、生年月日とも法の対象となる届出に基づくものである。

参考) 第10回食品安全委員会プリオン専門調査会参考資料1-2(農林水産省提出資料)より

図1 国内で確認されたBSE牛の出生時期

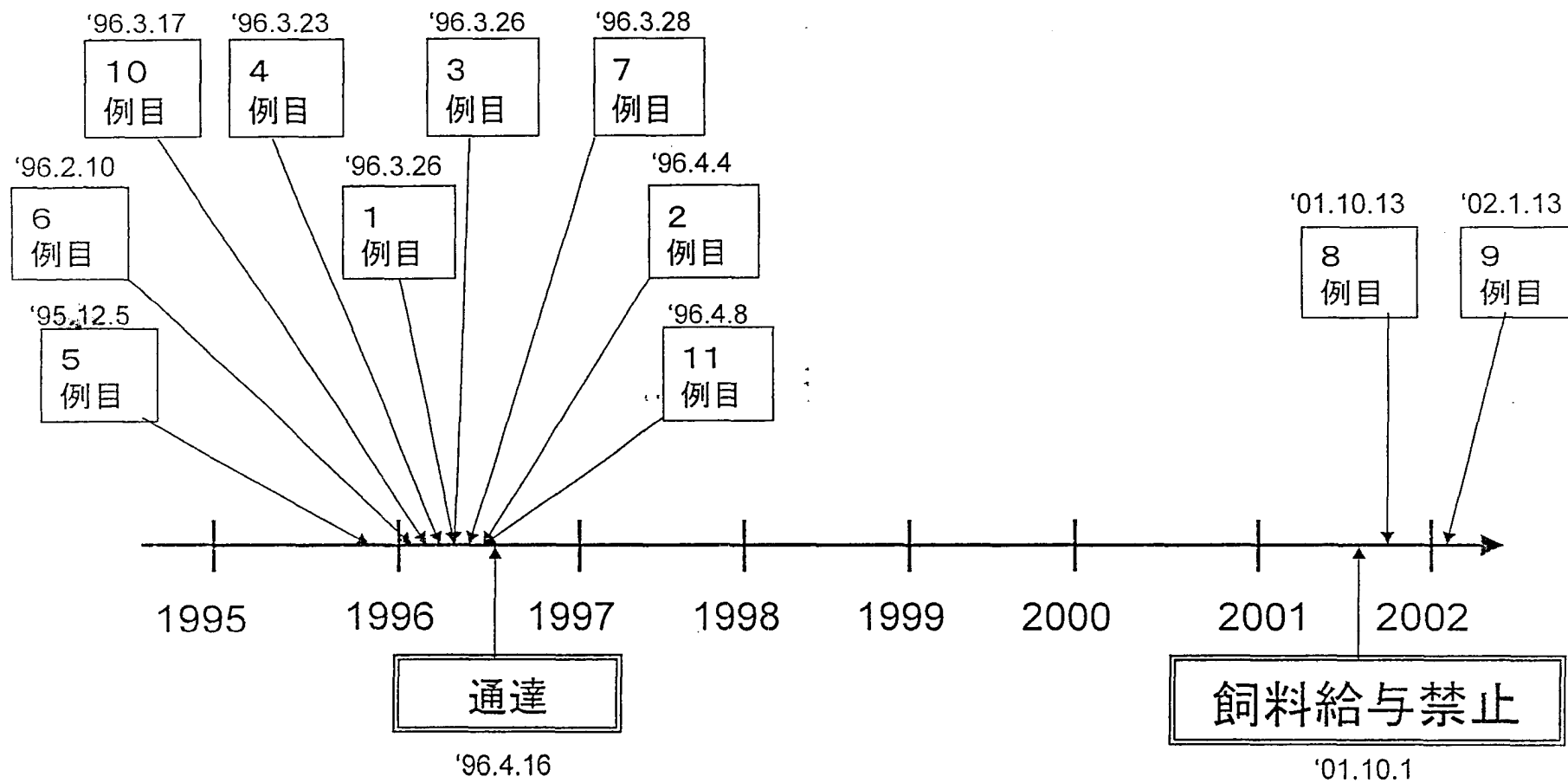
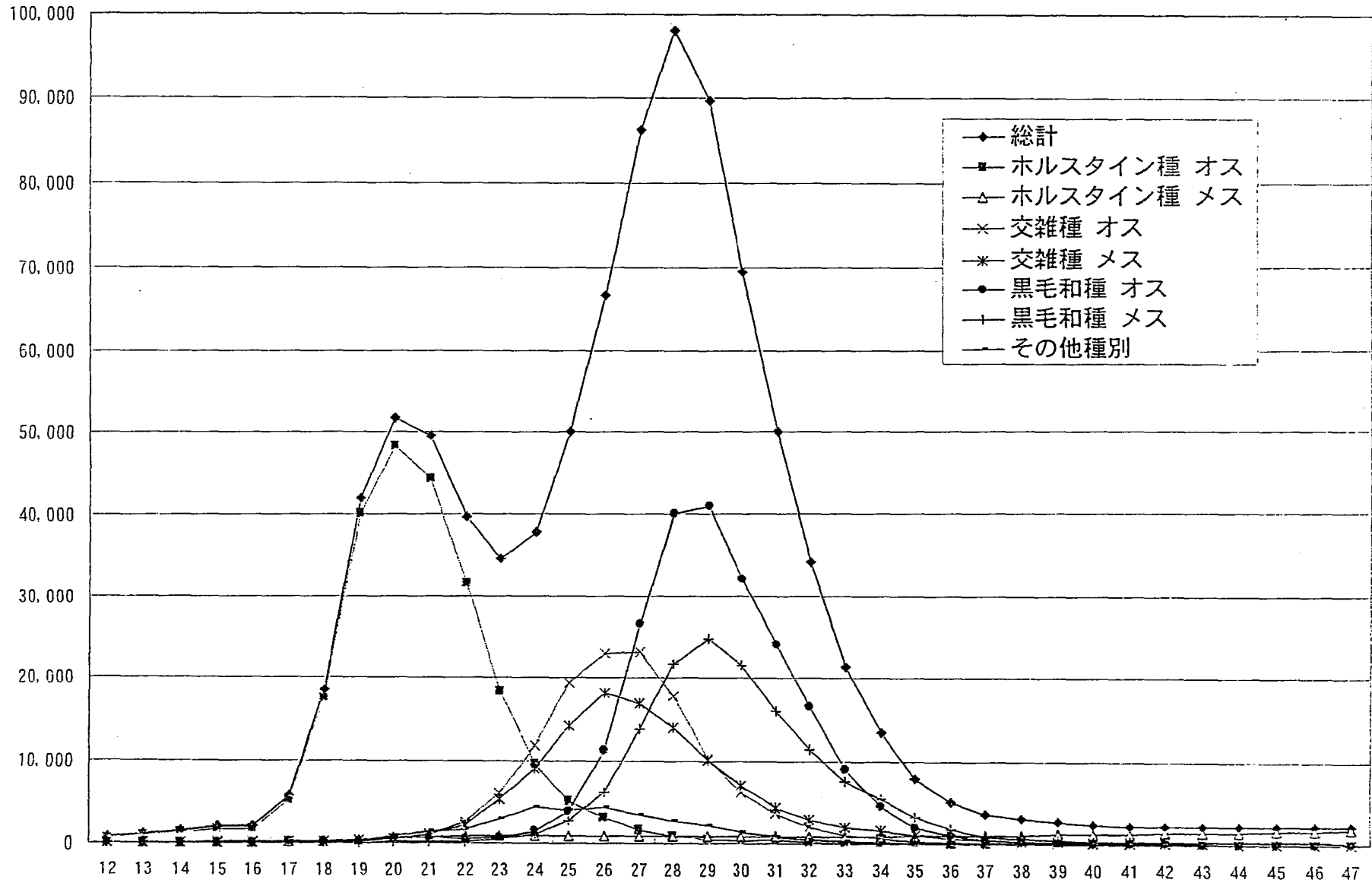


図2 月齢別・品種別と畜頭数

(図2)

と畜頭数



(図2) 月齢